

Aeromonas 属の発育が可能になった CIN 培地の検討

◎前田 孝嗣¹⁾、古株 利紀¹⁾、葛原 繁明²⁾
総合病院 伊達赤十字病院¹⁾、極東製薬工業株式会社²⁾

【目的】

便培養の起因菌検索に選択培地は重要になる。培地の種類を増やすことでより多くの起因菌を検出可能になるがコストとの兼ね合いが問題となる。今回、*Yersinia* 属に加え *Aeromonas* 属の発育も可能にした変法 Cefsulodin, Irgasan and novobiocin 培地(以下 M-CIN 培地)を使用する機会を得たので検討を行った。

【方法】

従来の CIN 培地に含まれる抗菌薬は Cefsulodin 15mg/L、Irgasan 4mg/L、Novobiocin 2.5mg/L となっているが、今回使用した変法培地は Cefsulodin の濃度が 4mg/L に減量され、*Aeromonas* 属も発育可能となった。当院で分離、保存されている *Yersinia enterocolitica* 10 株と *Aeromonas hydrophila* 10 株を用い、DHL 培地、SS-PLUS/CIX 培地、CIN 培地および M-CIN 培地に菌液を接種し、好気条件下で 35℃、16～18 時間培養後に発育の有無を確認した。目的菌以外の発育については、日常検査で使用した便 7 件を CIN 培地と M-CIN 培地に接種し発育した細菌の同定を行った。

【結果】

M-CIN 培地では、*Y. enterocolitica* 10 株全てが発育、*A. hydrophila* も 10 株全てが発育した。CIN 培地では 2 株で発育抑制がみられた。目的菌以外の発育では *Citrobacter freundii* と *Morganella morganii* が確認された。

【結語】

M-CIN 培地の検討を行った。*Y. enterocolitica* と *A. hydrophila* について発育を確認したが、どちらも良好な発育を示した。従来の CIN 培地では一部の *A. hydrophila* で発育抑制が見られたことから M-CIN 培地での発育能は優れていると思われる。また *Yersinia* 属と *Aeromonas* 属の集落は共に特徴的であり、他の細菌も発育するが容易に判別可能であった。本培地について *Yersinia* 属と *Aeromonas* 属の同時検出が可能な選択培地として期待したい。

連絡先：0142-23-2211（内線 354）